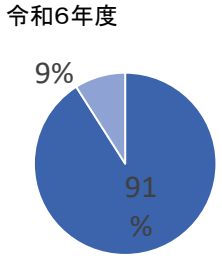
板橋区コミュニティ・スクールに係るアンケート調査《ＣＳ委員回答用》まとめ

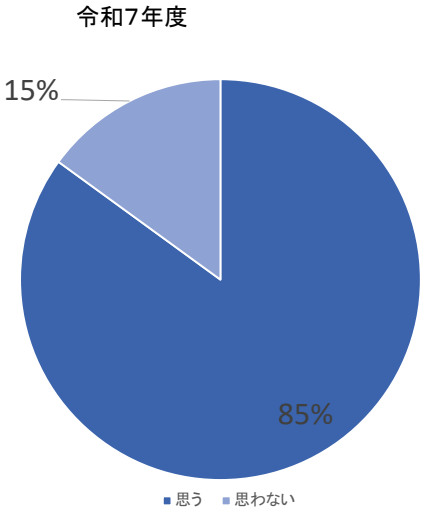
令和７年度

1

1

Ｑ１　会議の開催時間や開催時期・開催数は適切であったと思いますか。





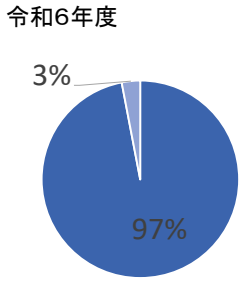
約８５％の委員が会議の開催時期・開催数は適切であったと回答した。

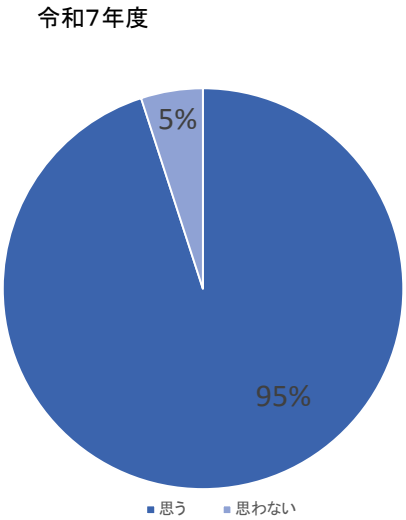
思わないとする回答の中には、「平日の参加は仕事の関係上難しい。」「時間が限られる中で全員の意見を聞けないこともあった。」などの意見があった。

2

2

Ｑ２　熟議のテーマ設定は適切であったと思いますか。





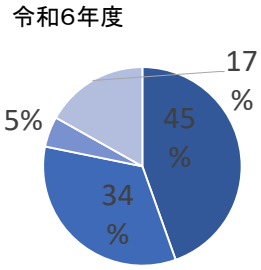
熟議のテーマが適切であったと思う委員は、約９５％であった。

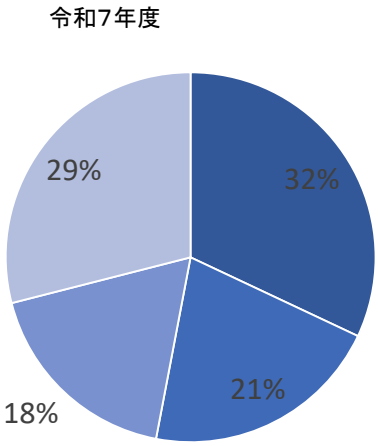
思わないとする回答の理由として、「テーマが大きく、抽象的なため、熟議にならないことがあった。」「年間通して議論するテーマを設け、毎回継続的に議論する時間を作る方が良いのではないかと思う。」との意見がみられた。

3

3

Ｑ３　ＣＳ委員会の開催方法として、書面開催及びＷＥＢ開催は必要だと思いますか。





両方必要　書面開催は必要　WEB開催は必要　どちらも必要ではない

書面開催及びＷＥＢ開催が必要だと思う委員は、約７１％であり、昨年度より約１２％減少した。

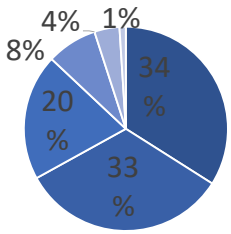
書面開催やWEB会議を取り入れた方が出席率が上がるのではないかとの意見がみられた一方で、学校に赴き学校の様子を肌で感じる必要があると考える委員も多い。

4

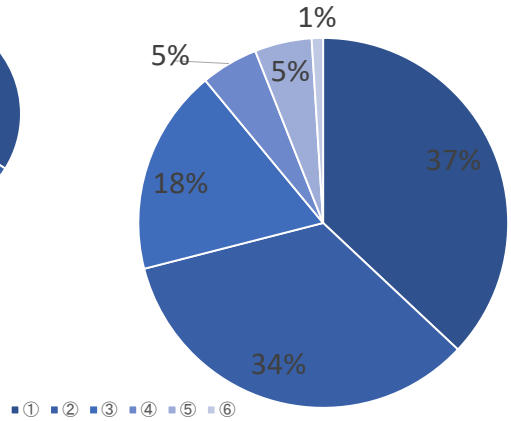
4

Ｑ４　地域とともにある学校を実現するにあたり、最も必要だと思う要素を１つ選択してください。

令和6年度



令和7年度



①及び②について、最も必要だとする回答が多かった。
学校の様子や課題を把握するうえで、教員を交えた熟議の実践を重視する委員が多い。

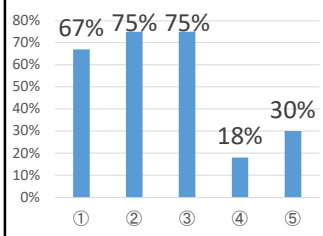
①地域との連携・協働が不可欠だとする学校・教職員の意識
②学校と地域が目標・ビジョンを共有するための熟議の実施
③地域の特色を生かした教育活動の展開
④地域人材の学校経営への参画
⑤地域への学校施設の開放
⑥その他

5

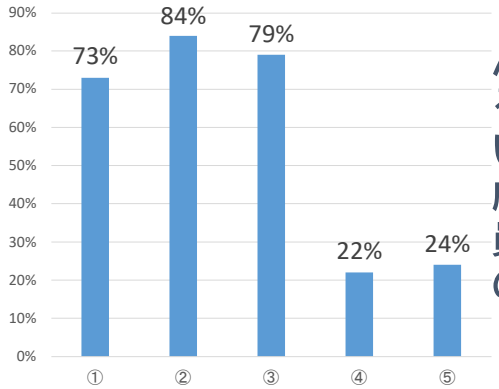
5

Ｑ５　学校の仕組みのうち、理解しているものを全て選択してください。

令和6年度



令和7年度



昨年度と比較し、ほとんどの項目で理解している委員の割合が増加している。④の教育課程の編成の仕組みについての委員の理解度の低さは今後の課題となる。

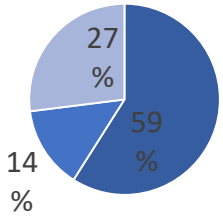
①教職員の勤務時間
②教職員の職層の仕組み（校長・副校長・主幹教諭など）
③学校で働いている教職員の種別（教員、事務職員など）
④教育課程の編成の仕組み
⑤教職員の異動の仕組み（異動対象者、任命権者など）

6

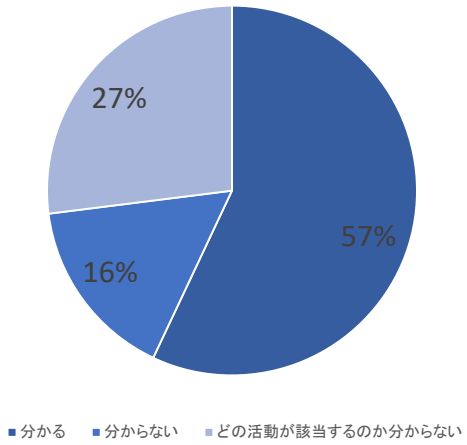
6

Ｑ６　学校支援地域本部がどのような活動を行っているのか分かりますか。

令和6年度



令和7年度



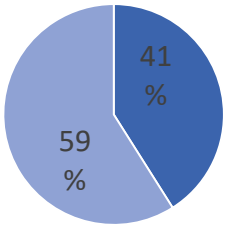
ｉＣＳの両輪である学校支援地域本部について、約５７%の委員が分かると回答している。ＣＳ委員会の中で地域コーディネーターからの活動報告を必須とするなどし、ＣＳ委員への認知度を上げていく必要がある。

7

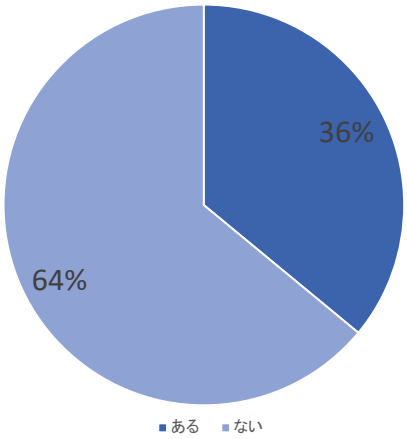
7

Ｑ７　１年間ＣＳ委員として活動してみて、ＣＳ委員会について課題と感じていることはありますか。

令和6年度



令和7年度



約３６%の委員がＣＳ委員会に課題があると回答した。

【主な意見】

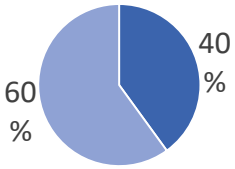
■熟議の時間が短い、開催回数が少ないと感じる。
■熟議をしたことが具体的に形になっていない。
■学びのエリア内での情報共有と熟議が必要だと思う。
など

8

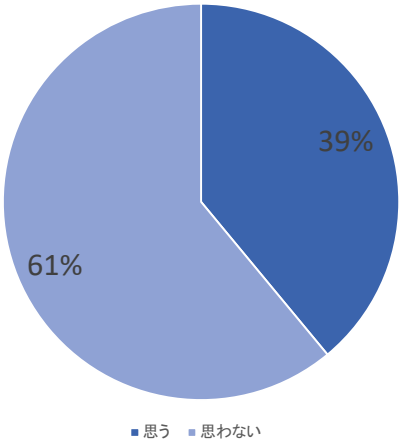
8

Ｑ８　委員の任期に更新限度を設定した方がいいと思いますか。

令和6年度



令和7年度



約３９％の委員が、任期に更新限度を設定した方がいいと回答した。

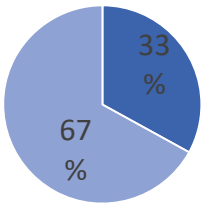
２年～５年程度の回答が多く寄せられた。

9

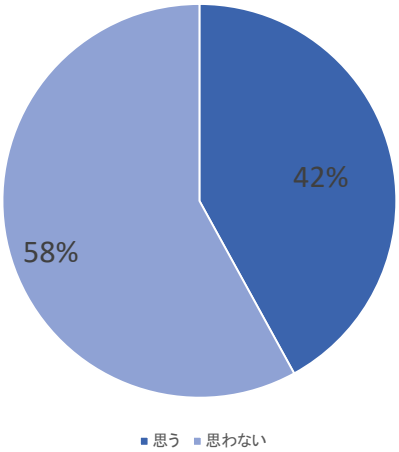
9

Ｑ９　委員長の任期についても定めた方がいいと思いますか。

令和6年度



令和7年度



約４２％の委員が、委員長の任期について定めた方が良いと回答した。

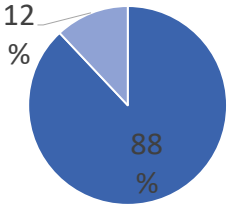
委員の任期と同じく、２年～５年程度との回答が多く寄せられた。

10

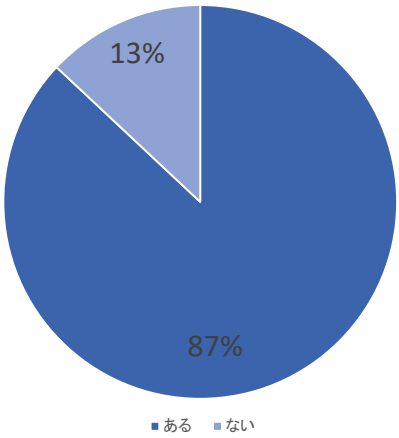
10

Ｑ１０　ｉＣＳに関する情報発信のため、「ｉＣＳレター」を年数回発行していますが、読んだことはありますか。

令和6年度



令和7年度



約８７%の委員が、読んだことがあると回答した。

すぐーるでの配信やＣＳ委員会での机上配付で読んでいる委員が多数だった。

内容については、各ＣＳ委員会の好事例、ｉＣＳの仕組み・取組についてについて参考になったという意見が多く寄せられた。

11

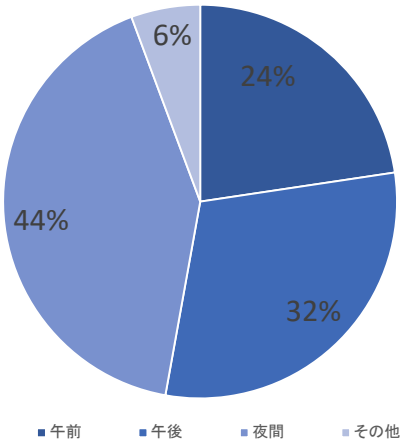
11

Ｑ１１　教育委員会が主催する研修等について、参加しやすい時間帯はいつですか。

令和6年度

設問なし

令和7年度



約４４%の委員が、夜間と回答し、最も割合が高かった。

研修だけでなく、ＣＳ委員会も夜間の方が参加しやすいという意見も見られた。

12

12

Ｑ１２　ＣＳ委員会や学校支援地域本部に関して、学校や教育委員会に対する要望・意見等がある場合にはご記入ください。

主な意見の内容とそれに対する回答

意　見	回　答
教員の働き方改革には賛成だが、年に数回程度はＣＳ委員会への教員参加も必要だと思う。	教員を交えた熟議を行うことで、学校の現状や課題、悩みが見えてくる。教員を交えた熟議を行っている学校の中には、授業を終えた教員から随時参加する形式をとる学校や、夏休み中に開催されるＣＳ委員会で教員が全員参加する学校もある。
小中合同のＣＳ委員会を開催した方が良い。	令和７年度、学びのエリアの小中合同でＣＳ委員会を開催した学校は約18%だった。合同のＣＳ委員会を開催することで、中１ギャップの解消や、小中連携で取組むべき課題などについて熟議することができる。今後、ＣＳ委員会の小中合同での開催が増えていくことが期待される。
ＣＳ委員以外の地域、保護者に対するアピールがもっと必要だと思う。	地域・保護者への周知として、ＳＮＳ等の活用に力を入れていく。 オブザーバーとして委員以外の保護者がＣＳ委員会に参加している学校もある。

13

13